

磐城時報 第三十卷 日刊 編輯者 石城郡平町 印刷者 石城郡平町 發行所 石城郡平町

朝香宮、李王兩殿下 愈々あす御歸京

演習中の御動靜について 大内大尉謹んで語る 演習中の御動靜について、大内大尉が語る。朝香宮、李王兩殿下は、演習中、御動靜が如何なるに於て、大内大尉が語る。

養蠶調査地 泉村に決定

農林省の産業五ヶ年計劃による 養蠶の實態調査指定地は石城郡 泉村に決定、擔當員も選定を終 了した。泉村に決定、擔當員も選定を終 了した。泉村に決定、擔當員も選定を終 了した。

推茸栽培講習 石城

郡永戸村大字戸渡藁谷米助方並 郡永戸村大字高野高萩コウ方で 十一日推茸栽培講習會を開いた。 十一日推茸栽培講習會を開いた。 十一日推茸栽培講習會を開いた。

御眞影奉安庫の 不正工事發覺

石城郡赤井村第一、第二兩小學庫とも 屋根が腐朽してゐるのを 校の御眞影奉安庫は三年前同村發見取調 べた處契約の銅板を使 大字高萩高木綱治(四七)が工事 用せず日光銅と稱する鐵と銅の 合板を敷いたが、去る四月二十九日 天長節の際奉安たので同村會の問題 になつてゐる。

博覽會の 收支決算

平町産業博覽會は花の挿入時に 雨と風にたゞられたが、十一日 總決算を了した結果を見ると左 の如く差引百二十圓の利益を示 してゐる。

既に賣り盡した最近 皮肉にも米價騰る

農民には恩恵なし 石城郡地方の米價は政府米買換定 である。郡内の掃立は前年に 策を見越し漸次高騰の氣配を示 比二割内外の減を豫想されて 三月末日四等標準米一俵七圓 六十錢の騰落を見たが、五月七 日に至り八圓四十錢となり更に 十一日執行の共販で八圓四十八 錢の高値を見るに至り更に高騰 の見込み十分である。疲弊しき つた中農階級以下のものは持米 の殆ど全部を手離した今日米 價の昂騰は尋常の仲買商人乃至大 地主にのみ利益を獨占される傾 きあり一般農民に何等の好影響 なきものと観られてゐる。

入山競技大會

湯本 郡小川村大字下小川二俣神社で は十三日午前八時から氏子總代 會を開き社殿改修の件を協議し たらんと開催する。

二俣神社改修

石城 本籍石城郡大浦村大字上仁井田 字岸前一三〇番地生れ當時四倉 町字福田町六番地漁夫小林清( 四四)は去る二日午前三時頃四 倉町字新町海岸通り大敷事務所 坂本嘉兵衛氏所有船第二日之出 九二十馬力が碇泊中機室の鍵 を破りつて忍び入り發動器附屬 品フランクメタル包金製一個價 格二十圓を竊盜し同海岸を徘徊 中四倉署小山田刑事に捕はれた。

土藏で溢死

石城郡玉 川村大字林城長瀬勝彌(四〇)は 十二日午後二時頃自宅土藏の中 で溢死を遂げた、原因は精神異 状である。

料一、三二四、五〇(雜收入) 四九〇、〇〇(場外賣店貸代) 外七〇、〇〇 收入合計一八、 三三〇、七〇 支出 五四四、八五(創立費) 七、八四四、四六(建築費)三三 二、四五印刷費一七七、四四 (通信費)九四四、六八(勸誘費) 一、八三四、三〇(人件費) 三、六八七、八三(設備費)外宣 傳雜費等、支出計一八、一九 四、三〇

江名漁船 鯉漁準備

石城郡江名濱では鯉漁が終り 休業中であつたが鯉群愈々近づ いて來た事を知つたので近日中 盛厚丸始め出帆の準備中である。

江名町で種痘

江名町 九日全町の種痘を行った。

附屬品を盗む

石城 本籍石城郡大浦村大字上仁井田 字岸前一三〇番地生れ當時四倉 町字福田町六番地漁夫小林清( 四四)は去る二日午前三時頃四 倉町字新町海岸通り大敷事務所 坂本嘉兵衛氏所有船第二日之出 九二十馬力が碇泊中機室の鍵 を破りつて忍び入り發動器附屬 品フランクメタル包金製一個價 格二十圓を竊盜し同海岸を徘徊 中四倉署小山田刑事に捕はれた。

川前溪谷

五月新緑の探勝地として縣下で 非常な賑はひを呈した。地方 有名な磐越東線小川郡川前間 川前村では青年團が總出動して の石城郡川前村地内夏井川溪谷 外來者の案内、休憩所標示の掲 げ目下眼も鮮やかな若葉の色に包 示宣傳等に百パーセントのサイ ンが上懸々に濃艶な若葉の緑が 咲き亂れて彩れる美観は云ふも 同地を縣下の耶馬溪として一 更なりで相、双方面を初め遠く 茨城方面の縣外から迄杖を曳く 目論み前記兩縣間の枝信號所に 旅客の季節臨時停車の實現運 状である。

磐城セメント會社で 田村に工場新設

鐵道大臣その他に 新驛設置方陳情 石城郡四倉町磐城セメント會社 田村郡瀧根村から採取鐵道便に 依り運搬しつゝあつたが、これ では運賃其他生産費のみでも莫 大な費用が嵩み現在の市價から 見て算盤が取れぬから田村郡菅 谷村に一萬六千坪の土地を買収 し工場新設計劃が成立し既に工 場建設工事に着手してゐるが、 セメント材料並に生産品の集積 便ならしめる爲め工場地たる 磐城東線の菅谷村地内に菅谷驛 を新設すべく運動を開始し磐城 セメント小室所長は村民三百余 名の連署を以て十日床次鐵相其 他關係方面に陳情猛運動を開始 した。

トラホーム検診

石城郡小川村戸渡分教場では見 童五十三名のトラホーム検診を 行つたが罹病者皆無であつた。

妻の搜索願

石城郡赤 井村大字西小川笠原政次郎妻キ ヲ(三八)は去る四日情夫である 同村四下部富貴藏と墮落したの で十三日政次郎は平署に搜索方 を願ひ出た。

江名町で種痘

江名町 九日全町の種痘を行った。

附屬品を盗む

石城 本籍石城郡大浦村大字上仁井田 字岸前一三〇番地生れ當時四倉 町字福田町六番地漁夫小林清( 四四)は去る二日午前三時頃四 倉町字新町海岸通り大敷事務所 坂本嘉兵衛氏所有船第二日之出 九二十馬力が碇泊中機室の鍵 を破りつて忍び入り發動器附屬 品フランクメタル包金製一個價 格二十圓を竊盜し同海岸を徘徊 中四倉署小山田刑事に捕はれた。

▲傳染病發生 平町月見 町十九大沼三郎(二ツ)はジフテ リア、三丁目十七坂本道三郎( 十)はパラチプスと判明十三日 隔離された。

▲吉林から 步兵第三十聯隊附 進 折しも除隊兵、初年兵の交替 期に際會致し候爲席の温まる 暇もなく四月五日再度交替兵 關係兵器整備の爲旅順に出張 爾後殘務整理に從事致居り候 然るに本隊は遼陽に駐屯待期 の姿勢にて有之候處吉長、吉 敦沿線の匪賊又々出沒し同線 の橋梁を燒却する事實に三ヶ 所に及び候爲四月二十九日出 動翌三十日吉林に到着大部を 二道河子迄出動せしめ鐵道警 備中に候 小官も直に追送兵器を率領し て旅順出發五月二日無事吉林 に到着追送兵器を交付す漸く 任務を完了し只今吉林に駐屯 中に御座候 前述の如く殆んど停止なる語 を忘れたる如き行動中なりし 爲多忙に紛れ御通知を怠り意 外の御無禮平に御覽客の程伏 して御願申上候 滿州にては櫻は見るに由なき も春光は忘れなく訪れ廣漠果 なき原野には楡の若芽己に萌 へ高粱植付の準備忙しき〇〇 の農夫も澤山働居る昨今將 に戰期には有之候へ共御承 知の如くそら、滿州名物の 一つに數へらるる、黄蘆萬丈の 節に向ひ候爲今後は又之が一 苦勞かと噂致し居り候 愚文亂筆を長々しく綴り合せ 其意を得ざる節も多有之る べく候も情状御推察の上御判 讀願申上候 先は右御慰禮御禮券等近況御 報告並に御無音御詫申上度如 斯御座候 末筆乍ら御尊家の御繁榮を神 かけて御祈申上候 (完)

### レコード破りの石炭大特賣

磐城炭礦 二 等炭

### 正味十貫匁一俵金卅錢也

「品が良く」「値は安く」をモットーとする當店は、此度超破格の格安石炭を販賣開始致します。値が安くとも品は悪くはありません。磐城炭礦の處分の大堀出物です、品物の無くならない中に御注文下さい。

●配達は一俵より致します

御注文は

電話三三七番へ

平 停車場前

阿部石炭商店

御料理 一の井

電 一六七

### 店開

五月十六日ヨリ

平町南町(元大和家ヲ改装)

ランチルーム

一の井

電 一六七

印刷物の御注文は

加納活版所へ

### 最新式機械増設

御名刺、葉書等は

御待ち中に仕上げます。

平町字紺屋町

加納活版所

電話四〇九番

### 特賣會

レンコート……………特賣  
春のセビロ……………特賣  
春のスボン……………特賣  
夏トントンビ……………特賣  
防水マント合ゴム上等品……………一圓三十五錢  
紺サージ通學服……………三圓四十錢

平町四町目停車場通

正札堂洋服店

電話四三六番

病室完備

平町南町

外科 専門 X光線科  
上田外科醫院  
電話一二九番

入院應需

難波醫院

内科 醫學博士 難波 睦  
平町大町新川端  
電話(五〇二番)

電話(五〇二番)

耳鼻咽喉科 専門  
氣管食道科 専門

病室完備…自炊の便あり

大和田醫院

電話一七〇番

カクテル  
イキタヒジテン352  
レストラン サロン

胃腸科 専門  
皮膚科 専門  
皮膚病 婦人病 淋病 性病 腸胃病 胃腸科 腸胃病 腸胃病  
院 醫科 院 醫科  
(七〇一話電) 町南町平

大城無盡  
誠意堅實

外科 内臓外科 整形外科 醫學士 松永憲一  
婦人科 院長 木村寅次郎  
平町字新川町  
木村病院  
電話一六四番

油と味噌  
山崎合名會社  
福島縣平町  
電話(營業部専用)一〇番  
電話(一般用)二七番  
振替東京一九七五五番

生花教授  
家元龍生派池坊  
生花、盛花、投入、自然  
營業では御座いません趣味で御相手致し度うございます  
平町仲町三  
華道教授 天水庵 岡田華悦

内科 小兒科 (入院應需)  
花柳病科  
藤沼醫院  
平町紺屋町  
電話平四五〇七番